

土砂防止柵の効果実証

ハイパワーフェンス協会 高岡で来月実験

日東製網の子会社で、高岡市内免に営業所を持つ泰東(大阪市)などが加盟するハイパワーフェンス協会(事務局・富山市婦中町西本郷、安藤信雄会長)は8月10日、高岡市岩坪で、集中豪雨や地震による土砂崩壊や地滑りなど

を想定し、特殊工法の防止柵の実証実験を行う。

実験場所は富山鉢山の敷地内。高さ25㍎、傾斜50度の斜面上に、土砂流下装置を設置し、同協会が開発したH E F (ハイパワー・アース・フェンス)工法の防止柵で実験する。

泰東やライテック(富山市)三和ボーリング(同)、和光物産(新潟)、総合開発(香川)など同協会会員を中心とした10社が協力し、防災が専門の前川幸次金沢大教授が指導する。



金網を支える鉄パイプの支柱にモルタルと補強材を詰め、強度を高めたのが特徴。柵の高さは3㍎、幅は15㍎で、実際に土砂50立方㍎を流して防止効果を見極める。施工実績は国内で10例ほどあり、今後普及させたい考え。

.....
実証実験で使用するH E F工法の防止柵